

事業計画書

1 事業名称	馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト
2 協働事業の内容及び実施方法	(1) 事業の目的 オリピック・パラリンピック開催に伴い「うままちプロジェクト」の取り組みが行われている馬事公苑界わいにおいて、オリパラ開催後も持続する住民コミュニティ形成を働きかける。「人と人とのつながり 心の豊かさの再確認」をキーワードに、地域資源開発と並行して、学生から子育て世代、働き盛りからシニア世代までを包摂するようなイベントを開催する。地域資源開発として、勉強会やワークショップを開き、世代や属性を越えて共に気付きと学び、交流を通じて仲間づくりを促す。自分たちが暮らすまちへの愛着と共に市民感覚（パブリックマインド）を育み、個人や家庭の暮らしの豊かさの先にある「まちの豊かさ」を考える場を作る。けやき広場でイベントを開くことで、こうした取り組みをより多くの市民に知らせ、参画を働きかける。このコミュニティデザインが子どもの遊びの乏しさや、独居老人の孤立といった既存の地域課題は勿論、新型コロナウイルス感染拡大に伴い変化した社会で、住民が健やかに暮らし、働くための地域コミュニティのあり方を自分たちで見出していくことを目指す。また、発災時には共助ネットワークとしてコミュニティが機能していくことも目的とする。
	(2) 事業の内容 * 実施体制や実施手法を含めて記入すること。 【実施体制】 ・ 世田谷区都市デザイン課の担当職員、NPO 法人子育て支援グループ amigo のコーディネーターを中心に、令和3年度に引き続き、近隣の商店、学生、町会、マンション管理組合、コミュニティ形成に関心のある住民を募り実行委員会形式の会議体メンバーを随時募集する。 ・ 定期的にミーティングを開催し、まちづくりに関心のある区民や学生のネットワークを強化し、事務局（都市デザイン課、子育て支援グループ amigo）は中間支援としての機能強化を心がける。 ・ 年3~4回開催するけやき広場でのイベント「Bajicoichi バジイチ」で活躍する地域住民、賑わい創出に協力していただく地域の店舗や法人等の資源開発を進める。 ・ 町会やまちづくりセンター、社会福祉協議会などの公的な組織への事業説明をし、連携体制を作っていく。 【実施手法】 ① 情報発信（通信の発行、HP や SNS の作成） ・ 本プロジェクトの目的及びプロジェクトの進捗状況を、けやき広場利用者や地域住民に伝えるためのお知らせ「bajico 通信」を発行する。bajico 通信はけやき広場で配布するほか、近隣マンション自治会や町会を通じて地域への回覧、近隣の個店や施設への配布協力を依頼する。 ・ プロジェクトの HP の運営、Facebook、Instagram 等の SNS の活用により、幅広い世代の目に留まる情報発信をする。 ・ bajico 通信及び SNS でプロジェクトへの参加を随時呼びかけ、関心のある地域住民がいつでも繋がれる窓口を設ける。 ② 機運醸成（季節のイベント開催、パンフレット増刷） ・ 近隣住民や店舗、法人が交流するイベント「Bajicoichi バジイチ」を開催。 ・ パンフレットを増刷・配布し、活動の周知を図る。 ③ 調査（ヒアリング及びアンケートの実施） ・ 活動3年目の振り返りとして近隣住民向けにヒアリング及びアンケート調査を実施。 ④ 大学生と共に活動する ・ 自発的な関わりを促せるよう、定期的なミーティングと活動メニュー共に考える。
	(3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響による事業実施への工夫等 新型コロナウイルスの感染拡大状況と対応方法を適切に見極め、事業を進める。感染予防対策や健康観察は常時留意しながらも「人と人とのつながりづくり」に必要な会議やイベントは原則として対面で実施する。 万が一、事業関係者に感染が確認された場合には、担当課を通じて速やかに連絡し、指示に従って行動する。
	(4) 令和4年度事業完了予定日 2023年 2月 28日

3	協働の必要性及び役割分担	(1) 区の担当課	世田谷区都市整備政策部都市デザイン課
		(2) 協働する意義・必要性	NPO 法人子育て支援グループ amigo は馬事公苑界わいの子育て世代との繋がりを持つ機会が多く、この世代が界わいのコミュニティデザインの鍵の一つだと考えている。大規模マンション完成予定もあり、子育て世代の数は増える一方だが、都市部における核家族の子育ては、身近な子育てモデルに出会う機会がなく、孤立しがちだ。そうした子育てで家族が、長く地域に暮らす機会を設けること、支えられ、支え合う経験をすることで「地域」という感覚を育むことができると考えている。自団体が運営する施設は広さや収容人数も限られており、子育て世代以外への発信力が弱い。また、一つのNPO の働きかけで届けられる声には限界がある。地域のシンボルでもある「けやき広場」の活用に理解を得ること、町会や自治会、大学や企業への発信は、行政の持つ信頼性が大切だと考えている。
	(3) 役割分担	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす子育て家庭やこれから子育てをする世帯に、本プロジェクトを告知し、実働スタッフとして関わる地域住民を募る。 ・地域住民の会議体の中心となり、メンバー間のコーディネーターとして、プロジェクトの目的と住民の活躍の場を調整する。 ・地域住民を対象にヒアリング及びアンケートを企画・実施し、その結果をもとに、リアルな地域課題と次年度以降のイベントの方向性を会議体のメンバーと共に考える。 ・これまでのネットワークを元に、地域に根ざす個店や子育てに関連する行政機関の本プロジェクトへの参加協力を募る。 ・地域に暮らす若手のフリーランスに、企画・広報・記録等、活躍の機会を創出する。
		区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング及びアンケートの企画・実施の補助及び集計等の事務を行うこと。 ・けやき広場等の使用に伴い必要となる行政手続き（道路占用許可・道路使用許可・保健所・消防署への届出等）のサポートを行うこと。 ・事業実施に関して近隣町会や近隣住民との調整を図ること。 ・課題解決のための適切な行政の関係部署に対する必要な協力要請及び連携体制の構築を図ること。
(4) 地域の団体との連携	2018年4月に馬事公苑に隣接した地域子育て支援拠点「おでかけひろば ULALA」を開設し、月間のべ約200組の利用があり、900組を超える登録数がある。週1回、けやき広場に出張外遊びに出向いている。		
4	協働の成果・効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・会議体に地域住民を巻き込む ・地域住民に、地域の個店の掘り起こしやイベント出店への働きかけを依頼し、生活動線に沿った告知、広報を展開する。 ・地域の施設や個店で「bajico 通信」を配布し、オリジナルロゴのステッカーを貼っていただくことで、プロジェクトをきっかけに個店と住民との会話の糸口が生まれるきっかけを作る。 ・けやき広場に出向いてヒアリング調査を実施することで、プロジェクトへの関心がある人だけではなく、無関心層のありのままの声を聞くことができる。自分の目的で場に立ち寄っていた人が、思いがけない出会いや家族や友人以外と会話をする機会を生み出す。 ・オンライン発信を併用することで、子育てや介護、病気等で外出が難しい生活スタイルの住民にも地域参加の機会を作る。 ・自分の得意分野を生かしスキルを提供する機会を地域に創ることで、これまで地域に繋がっていなかった住民の活躍の場を創出する。 ・ヒアリング及びアンケートを通じて、地域住民がコロナウィルスの感染拡大により急激に変化した生活について、改めて振り返る機会を提供すると同時に、暮らしているまちに、自分の声を反映したり、居場所ができるイメージを持つことを期待する。
		(区担当課)	<ul style="list-style-type: none"> ・区独自では浮かばないアイデアや団体のネットワークを活用し、多様な世代や職種の方との繋がりや協力を得ることができる。 ・親しみやすいイベント等を通じ、地域住民が主体的に自分のまちや地域とのつながりについて感じ、考える機会を創出することができる。 ・イベントごとにアンケートを実施し、参加者の意識やリアルな声について確認し、次のイベント等に反映させるとともに運営スタッフになってくれるような人材を発掘する。また、定量的なアンケートを実施し、この活動が近隣住民にどういった効果をもたらしているのかを測定する。

[令和4年度提案型協働事業 様式]

	<p>(2)事業の成果の活用方法、将来の展開</p>	<p>(団 体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬事公苑界わいに暮らす様々な世代の住民が運営スタッフになり、人材が循環していくような組織づくりを目指す。 ・人的資源の他に、参加費や広告など事業収入に繋がる資源を開発し、持続可能な運営の仕組みを作る。 ・提案型協働事業を通じてコミュニティデザインの実績を作り、これからの「まちづくり」に必要な手法として他地域でも展開できる仕組みづくりを目指す。
		<p>(区担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役所内の他部署とも連携しながら、お互いの活動が充実するような取り組みを実施し、より一層地域のつながりを深めていく。 ・区内のコミュニティデザインのモデルケースとして他地域の住民主体のまちづくりにも展開できることを目指す。
<p>5 その他</p>	<p>* 提案する事業と関連する団体の特徴・専門性や実績、提案や事業実施に向けたアピールなど。</p>	<p>NPO 法人子育て支援グループ amigo は、2001 年から「産前産後」に特化し、子育て当事者が助産師、保育士と連携し、地域に根ざした子育てを当事者同士の相互支援活動を世田谷区松原を中心に展開してきた。現在の活動を支えるスタッフ 22 名のうち 7 割が元サービス利用者で、支援の受け手が支援者に循環するスタイルを特徴としている。</p> <p>2018 年から、馬事公苑そばに二つ目の拠点を構えたことから、馬事公苑界わいの住民や都市デザイン課「うままちプロジェクト」とも繋がりが生まれた。これまでイベントや会議を複数回実施したが、エリアのポテンシャルの高さを感じる一方で、住民の主体性を引き出しながらコミュニティデザインを展開することに難しさを感じた。コミュニティワークの経験に基づいたファシリテーションや、活動を軌道に乗せるための枠組みの必要を感じる場面が多く、当団体が今回の協働事業の応募に至った経緯がある。</p> <p>本事業の「まちづくり」の取り組みがあることで、自団体が展開しているテーマ型の活動への参加者（乳幼児子育て家庭・病気や障害のある子どもと家族）がまちに出るきっかけを生み出すことができる。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など	(1) 昨年度の協働事業の効果・実績 ※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市デザイン課と自団体の強みを生かし合い、信頼性とオリジナリティのバランスの取れた事業展開ができた一年となった。 ● イベントの開催回数や規模、内容などが馬事公苑界わいの住民のニーズと立地、景観などをうまく取り入れたスタイルにこの一年で纏めることができた。 ● 今年度実施したそれぞれのイベントは、本事業のテーマである世代や属性を超えた交流の場としてはもちろん、長引くコロナ禍において、まさに「心の豊かさの再確認」を叶えることができた。 ● 会議体メンバーとして2年関わってきた住民の方が、アクションを起こす「プレーヤー」になる成果を得られたことは、パブリックマインドの醸成という目標に対しての手応えを感じた。 ● 会議体メンバーが地域にネットワークを増やしていくことで、bajico イベントに関わる団体や住民が多様化し、層の厚いネットワークが築けていると感じている。 ● クラフトワークショップやオリジナルグッズの制作などで、初めて「自己資金」を生み出し、持続可能な事業として成長する第一歩を踏み出すことができた。 ● 世田谷区の他部署への認知も高まり、本事業と共催でイベント開催の提案を受けるようになった。部署を越えた「つながり」が住民の暮らしの質の向上や啓蒙につながっていくことを大変喜ばしく感じている。
	(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など ※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること	<ul style="list-style-type: none"> ● 一昨年の住民アンケートで拾った声を反映するイベントを企画したこと（マルシェ、運動、季節感等のキーワード）。 ● 紙媒体のパンフレットを作成したことで行政関係への周知が広がり、他部署から共同開催の依頼を多く受けられるようになった。イベント時には毎回、ワークショップを経て作成した横断幕をけやき広場に掲げた。行きかう人にとってアイキャッチとなるとともに、イベントへの期待感やわくわく感、一体感を増すことができた。 ● 学生とともに、リアルでのイベント準備会を実施したことで、学生同士や事務局とのつながりが深まった。
	(3) 協働事業を継続する理由 ※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍ということもあり、屋内型の施設では接点を持つことのできる家庭数に限りがあるため、今後続くであろうニューノーマルの社会情勢においては「屋外型のイベント」を用いたコミュニティ醸成の重要性は引き続き高いと考えられるため。 ● 馬事公苑界わいのコミュニティデザインがまだ道半ばであるため。 ● 昨年度まではコロナ禍によるオンラインでのミーティングや活動時間が限られていたため、事務局主体の活動に留まっている。今年度以降、活躍の中心を地域住民にシフトしていくための事業展開が必要だと感じている。 ● 出店規約等を整理し、収益を安定させる必要があると考えるため。 ● 活動による地域への効果をアンケート等で測る必要があると考えるため。

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
5/15(日)	Baji∞ichi ① ・新年度学生メンバー顔合わせ 全体ミーティング 学生ミーティング 事務局ミーティング
6/4 (土)	Baji∞ichi② ・Baji∞ichi 出店規約策定 事務局ミーティング
7/18(祝)	Baji∞ichi ③ ・bajico 通信①発行 全体ミーティング 学生ミーティング (シャルソンチラシ作成) 事務局ミーティング
9月	シャルソン準備会 事務局ミーティング 住民アンケート
10/10 (祝)	Baji∞ichi ④ せたがやbajico シャルソン 全体ミーティング 学生ミーティング (キャンドルチラシ作成) 事務局ミーティング bajico 通信②発行
12/16(金)	Baji∞ichi⑤ キャンドルナイト 全体ミーティング 学生ミーティング 事務局ミーティング bajico 通信③発行

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額 (円)	積算内訳
補助金	500,000	
シャルソン参加費	70,000	1,000*70人
合計	570,000	

【支出】

費目・内容	金額 (円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	コーディネーター	162,000	162,000	@1,200*15H*9ヶ月
	イベントスタッフ	120,000	120,000	@1,000*3人*4回
	[小計]	282,000	282,000	
報償費	カメラマン	60,000	60,000	@20000*3回
	ワークショップ講師	25,000	25,000	@5,000*5人
	デザイナー	5,000	5,000	
	[小計]	90,000	90,000	
消耗品・備品費	テーブル	17,600	17,000	@4,400*4台
	インク	6,600	6,000	@3,300**2個
	竹串	778	700	
	紙皿	589	500	
	ホットドックスリーブ	459	400	
	ペンキ	1898	1800	
	乾電池	4,472	3600	*@1254*2 *@982*2
[小計]	32,396	30,000		
複写・印刷費	Tシャツ印刷費	89,870	85,000	100枚
	パンフレット印刷	7,580	7,000	1000部
	[小計]	97,450	92,000	
郵送・広告・保険料	イベント保険	6,000	6,000	1,500*4回
	[小計]	6,000	6,000	
使用料・賃借料				
	[小計]			
交通費				
	[小計]			
その他	振り込み手数料	880	0	@220*4回
	[小計]	880	0	
合計	508,726	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費（団体等の日常運営の人員費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外です。

